

日本経営論		教授 谷崎 敏昭	
科目カテゴリー	国際ビジネスコースの専門選択科目、経営・経済コースの専門選択科目	科目ナンバリング	23202201

1. 授業のねらい・概要

戦後日本企業は、培ってきた技術的基盤とアメリカの援助で、高度経済成長を実現し、飛躍的な発展に成功した。官民協調的経済政策で、欧米企業の経営手法とは異なる方法で経営手法を確立させた。形式上は欧米企業と同じ株式会社制度を持っているが、日本の株式会社制度に対する理念や哲学はかなり異なっている。日本の企業を産業別に、グローバル化による経営手法の変化を探ることが、この講義の目的である。

2. 授業の進め方

授業は講義方式で行い、必要に応じてレポートの提出を指示する。

3. 授業計画

- | | |
|---------------------|-------------------|
| 1. 日本経営論について（日本の経営） | 9. 日本の小売業 |
| 2. 官僚制と日本社会 | 10. 日本の農業経営 |
| 3. グローバル化の本質と展望 | 11. 日本の海洋・航空産業 |
| 4. 日本の研究開発 | 12. 日本のホスピタリティ一産業 |
| 5. 日本のものづくり（工作機械） | 13. 地場産業の経営 |
| 6. 日本の金融業 | 14. 少子化と産業の合理化 |
| 7. 日本の流通業 | 15. 日本経営論の課題 |
| 8. 日本の製造業 | |

4. 準備学修（予習・復習等）の具体的な内容及びそれに必要な時間

研究室のHP (<http://tyit.blogspot.com/>) にアクセスし指示された項目について1時間程度予習、復習を行うこと。

5. 課題（試験やレポート等）に対するフィードバックの方法

試験終了後に解説を行う。

6. 授業における学修の到達目標

企業がめざしてきた普遍的な日本の経営について理解すると共に、日本の産業の実態を明らかにする。大学卒業後には社会で働く学生にとって必要な、企業にかかわる知識を得ること。さらに変わりゆく日本の企業社会について理解する。

7. 成績評価の方法・基準

試験結果70%、授業の貢献度30%。

8. テキスト・参考文献

必要に応じて指示する。

9. 受講上の留意事項

試験ではノートの持込を許可するので、しっかりとまとめておくこと。